

第18回 CTサミット参加報告

札幌医科大学附属病院 平野 透

7月26日（土：2014年）に東京の笹川記念会館で開催された第18回 CTサミットに参加致しましたので報告致します。このCTサミットはCTの最先端の情報を提供すると共に、基礎的な知識の習得を目的に発足された研究会です。会の開催数と同じくCTサミットは今年で18年目であり、ヘリカルスキャンが臨床で多くの施設が使い始めた頃に発足したわけですから、日本のCT技術の進歩とCTサミットが共に歩んでいると私は感じております。今回のCTサミットは済生会中和病院の大沢一彰氏の当番世話人として、会のメインテーマを「Challenge To The Future CT Technology」というCT技術全般にわたる未来への挑戦を意図したプログラムになっていました。内容を簡単に示すと

1 CTの基礎講座

ここではCTの基礎ではあるが、新しい技術や概念による評価方法等が解説されました。特にDual Energy CTの登場によるビームハードニング効果の抑制について、そしてパーシャルボリューム効果に時間要素を含めた評価等、古くから知られている現象が、技術革新により制御できる可能性や評価方法の新しい知見を知ることができました。

2 装置メーカーによる新しい技術の発表と優秀演題発表

昼食を食べながらの装置メーカーと優秀演題（一般演題）の発表でしたが、装置メーカーは自社が最も力を入れている技術に絞って発表され、現状使える技術から数年後又は現状では未定の未来に使用できる技術の紹介があり、新しい時代へのCTの進化を少し感じた講演になっていました。また今回一般演題が12演題（ポスター発表）あり、その中で優秀演題と認められた3演題が壇上で口述発表され、その発表を踏まえて3演題から金賞、銀賞、銅賞の受賞が決まるとい

うことで、発表者も非常にきちんとした発表をされていました。3演題中、2演題が学生であり学生のレベルの高さも感じました。

3 物理評価と臨床利用の進歩

前半が物理評価に関してのものでAquilion ONEのVolume scanに関する物理特性や、Dual Energy CTにおける線量測定、新しい小児CTにおける線量指標や、近年のCT装置の進歩に伴う新しい造影方法に関する研究等が報告されていました。

後半では、冠動脈CTにおける新しい画像表示方法や、CTを用いた体内臓器の温度測定、プロジェクションマッピングを用いた新しいCT透視開発、管電圧を適正に変化・制御させる機能の臨床への挑戦等の報告があり、3演題に関しては現在、世に出ていない新しい技術であり、技術の普及が非常に望まれる内容になっていました。

4 特別講演: Dual Energy CTによる消化管の診断

東邦大学医療センター放射線科の白神先生から、Dual Energy CTのヨードマップが病変の検出に有用である発表がありました。消化管領域にDual Energy CTを用いるのは、あまり聞いたことが無かったのですが、鑑別や診断にそのプロである放射線診断医も有用とっておられたので、将来一般的な画像診断になる可能性もあると感じました。

以上のプログラムで午前10:30から午後7:00過ぎまで、多岐にわたる素晴らしい発表を聞けました。真夏の東京、当日は外気温が35度近くまで上がる猛暑に、全国から600名近くの参加者が自費で参加するのですから、やはりCTをやっている者としてCTサミットは外せない研究会であることは間違いないと感じております。また、サミットのもう一つの楽しみは研究会後の情報交換会です。毎年、多くの参加者が情報懇親会にも参加し、演者に研究会中聞けなかったことを聞いたり、新たに仲間を増やし今後の横の繋がりを増やしたり、メ

一カーの方から色んな情報を聞いたり、ただ飲んで親睦を深めたり、楽しい時間を毎年過ごしているようです。昼も夜もいろんな刺激をCTサミットでは吸収することができます。来年も同時期に東京であります、外も暑いですがサミットも暑くて楽しいですよ。